よんころ

第 10 号
平成14年2月21日発行
岩手県高体連ソフトテニス専門部
部長 及川征一
印刷所 ㈲江文社

ごあいさつ

岩手県高等学校体育遠盟ソフトテニス専門部長
（岩谷堂高等学校長）
及川征一

岩手県高等学校体育連盟ソフトテニス専門部の皆さんには、新たなる目標を胸に２００２年をスタートされましたことと、お喜び申し上げます。

黒沢尻北高男子によるインターハイ団体優勝の偉業達成以来、はや３年が経とうとしております。彼らの残した栄光の足跡は、当時中学生だった今の選手諸君の心にも、大きな誇りと自信となって残っているものと確信します。

こうした実績を振り返り、これからの活躍を展望する時、今日もなお私たちを応援してくださっている県ソフトテニス連盟・市町村協会、中・小体連ソフトテニス専門部の皆様に、あらためて感謝を申し上げる次第であります。

さて、連日３７度を越す猛暑の中で開催された熊本インターハイにおいては、本県勢は男子も女子もいまひとつ力が発揮できず、悔しい思いをいたしました。勝負の違いを分ける一線をぶち破るしたたかな精神力と技を、日ごろの練習で養わなければならないということを痛感させられました。このことはまた、お隣宮城県で行われた国体にも言えることでありました。とりわけ少年女子はいくつかあった勝機を確かなものにできず、惜敗いたしました。

最近の県内大会を見ると、これまで連勝してきたチームに対して新しい勢力がくいさがり、逆転するケースが多くなってきた感じがします。たくましい研究心と努力がこのような切磋琢磨の状況を生み出し、競技力のレベルアップにつながって来ているのだと思います。ひとたび岩手県代表の地位についた選手は、更に精進を積み、東北そして全国の覇権を目指してもらいたいものです。

ソフトテニスを愛する仲間が集まり、一人一人が存分に自分を発揮し成長していくことの実感を味わえるような部活動にできたら、お互いに一生の宝を得たことになると思います。

ご挨拶

岩手県ソフトテニス連盟会長　村上　照五郎

岩手県高体連ソフトテニス専門部会報第１０号を発刊されるにあたりまして、ご挨拶申し上げます。　２００２年に入り２１世紀の最初の年を振り返って見ますと県連盟と致しましては、ジュニアの育成が少子化に対する児童生徒のソフトテニスを行う人数の危惧を感じ皆さんのご協力を得て４月に小学生ソフトテニス連盟を発足いたしました所、いろいろな大会を催し積極的に参加も致しました。特に私が感心致しましたのは、２００１年の１２月８日に岩泉町のドームで行われた岩手県インドアソフトテニス大会兼東北小学生インドアソフトテニス大会県予選大会に男・女併せて１０２名の選手が参加し、応援の家族、監督、コーチ、地元の役員、本部役員等、私も参りましたが途中の道路の凍結している状態での、この沢山さんの参加には本当に改めてその熱心さに頭が下りました。シニアの部も７５才以上の部を設けましたので、これで生涯スポーツの形が出来たと考えられます。会員の登録数も１１月現在で東北６県で最高の１１，０６４名とトップを占めていて、このまま行けば良いと思っている所です。成績も８月に福島で行われたミニ国体で健斗し少年女子が優勝し総合得点で宮城、福島、岩手、と合計１７点と３県が並び１位の数は同じでしたが２位の数で他の２県に及ばず総合３位になり惜しくも優勝を逃がしました。しかしながら徐々に力がついて来ていることは確実でミニ国体だけでなく実績のあるインターハイ等でも高校生の健斗を祈る次第です。そして昨年を飾る明るい話題は何んと言っても内親王愛子様のご誕生で世相が明るくなった感じで、これが続くことを願う次第であります。本当にお目出とうございます。終わりに岩手県高体連ソフトテニス専門部の益々の発展を祈りましてご挨拶と致します。

【１０号の主な内容】

●Ｈ１１年岩手インターハイ大成功を礎に更なる発展を目指そうＮｏ２　２～３頁
●中体連、小体連コーナー　Ｎｏ２　３～６頁
●協会だより　Ｎｏ．１　宮古地区　６～７頁
●熊本インターハイ報告　８～９頁
●宮城国体　１０～１１頁
●スポーツにおけるメンタン＆ブレイントレーニングＮａｏ　１１頁
●先輩に学ぼうＮｏ．１０　１２～１３頁
●学連だよりＮｏ．２　１４頁
●大会報告　１５～２４頁
●Ｈ１４年度大会日程　２４頁
●飛び出せ！！よんころ８期生　２４頁

ご　あ　い　さ　つ

岩手県高等学校体育連盟ソフトテニス専門部副部長
（岩　泉　高　等　学　校　長）　　阿　部　竹　彦

新年あけましておめでとうございます。世想的には、昨年９月に発生した同時多発テロの流れのなかにあり、新年を迎えたといっても特別な思いが沸いてこない昨今であります。

ソフトテニスにおいては毎年新な出発が期待できるのが楽しみであります。ソフトテニスの高校生大会では覇者は常に一様ではないというところがあります。新人戦を終え、ジュニァ選手権を経て、室内選手権と続き、いよいよ高総体を迎える。それぞれの大会でベスト４をキープしているペァーは高総体での覇者になれる要素があるし、新人戦ではもうひとつというペァーであっても、その後のテニスの取り組み方と日々の生活の送り方によっては覇者になれる。

高校生の大会において大接戦を勝ちぬいて見事インターハイの出場権を手にする選手へ大いに拍手を送りたい。２年生頃から技術が増し、ひたむきさとかみ合って一戦一戦成長していくペァーは楽しみである。日常生活も充実しているペァーである、このような生徒達には勝利の女神が微笑むのである。戦うことに真摯な姿とは、単にテニスの技術が優れていることから生まれるものではありません、ペァーの信頼感、テニス以外での様々なことに対しての前向きな姿があってこそ実現するものであります。

高校生大会で、しかも高総体で花開く生徒達にはそれなりのひたむきさがあればこそ、であります。全県下のテニス部員のご活躍に期待をこめてあいさつといたします。

H11年岩手インターハイ大成功を礎に更なる発展を目指そう!!　No.2

今こそ若い力を結集させよう

高体連ソフトテニス専門部委員長
宮　田　　勤（盛岡女子高等学校）

私が委員長として、宮勧先生（黒沢尻南）から引継ぎ５年目を終えようとしています。来年度からは、高体連専門部の組織も若い先生方を中心にした専門部に切り替える年にしたいと考えております。

第一に委員長の交代であり、その責務を担って頂く方は、内藤真一一先生です。平成１４年度からは、新委員長内藤先生を中心に高体連専門部がますます発展することを願い、陰ながら力になって行きたいと考えております。

思えばこの５年間に、東北選手権２回、東北インドア、東北総体（ミニ国体）、インターハイ等の大きな大会を開催し、専門部の先生方や県連、北上市および北上協会の方々等、多くの人の協力を得てすべて成功裡に終えることができました。この紙面をお借りして感謝申し上げたいと存じます。今後、岩手県で全国規模の大会がいつ来ても問題なく開催できるのではないでしょうか。

専門部の組織についてもう少し述べさせていただきます。強化委員会については、及川通委員長・目時隆士副委員長の体制は、今後も継続しなければならないと思われます。全国的にも指導者として知れ渡っており、対外的な交流がスムーズに行えることは大きな財産であります。これだけは、若手の先生方がすぐにできることではありません。長年の指導者としての努力や実績がないとなかなか評価されないのではないでしょうか？

他の組織については、若い先生方のアイデアを生かした組織作りを目指したいと思っております。どうか皆さんの力を大いに発揮してください。

最後に、５年間高体連専門部の委員長を経験させていただき、多くのことを学んだと思います。これからも微力ではありますがお手伝いをさせていただきます。また、北上市役所において、インターハイ業務を２年間携わったことは一生の思い出となり、関係者の方々に御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

新世紀に期待して

高体連ソフトテニス専門部強化委員長
及　川　　通（一関第二高校）

２１世紀の初年度は、世界的にも激動の年となりました。米国でのテロ事件が有り、それに対するアフガニスタン攻撃が有りました。国内に目を向けると、不景気でリストラや解雇で家庭にもしわ寄せが来ています。高校生の就職率も県内で６５％と大変な世の中になりました。高校で３年間部活動を一生懸命した諸君が安心して世の中に出て行けるようにならないものかと、願っています。

２００２年を迎え、皆様は今年こそはと大いに張り切っていることと思われます。岩手インターハイで目時先生が率いる黒北が全国優勝を達成してから２年が過ぎました。その後、男子が国体８位入賞したり、女子がミニ国体で優勝したりと頑張ってはいるのですが、全国から考えると、もうひとつ勝ちきれていない感じがします。全国で勝つためには、全国を知ることから始まります。指導者の皆さん、経費の掛かることですが県外に出て多く試合をしましょう。強いチームの選手の姿・試合での戦法・クラブの運営等々必ずや学ぶところが有ります。金を捻出することも指導者の仕事の一つと思います。県代表になったら、全国で勝つチームであってほしいものです。現在でも県優勝しているところは、男子でも女子でも県外と多く交流している学校です。そのような学校が多くなり県のレベルが上がってほしいと思います。

岩手県体育協会で、今年度「選手強化５ヵ年計画」を出しました。岩手のスポーツ全体の発展と国体での２５位以内を目標とした強化です。その為には少年の部の活躍

に期待する旨の話もありました。県全体でもスポーツ医・科学委員会と遠手強化本部と合同会議を開催したりと関係者一丸となり強化に向かっています。

学校現場では、来年度から選休２日制完全実施となります。「ゆとり教育」から「学力向上」主義に文部科学省も方向転換しまして、我々の学校自体は多忙となってくると思います。難しいことですが、時間を上手に使いコートに立つ時間を多く取りたいものです。そして、全国のシード権を取るよう頑張りましょう。入賞の機会が多くなると「全国優勝」も見えてくると思います。

遠盟の指導を仰ぎ、中体遠と遠携を密にしながら高体遠の皆さん今年も頑張りましょう。

初優勝おめでとう！！

高体遠ソフトテニス専門部強化副委員長
目　時　隆　士（黒沢尻北高校）

平成１３年度の岩手県高校総体において、宮古商業高校が初優勝という快挙をなし遠げられ、全国高等学校総合体育大会へ初出場！本当におめでとうございました。

暑い中、熊本の地において、宮古商業の試合を岩手県一丸となって応援致しましたが、残念ながら初戦突破はなりませんでした。しかしながら初出場とは思えぬほど、のびのびとしたプレーがあり大接戦の末涙をのみました。

宮古商業高校の選手遠は、努力すれば、岩手県は無論東北、全国に選用するのだという自信と勇気を持ったことと思います。

岩手県のすべての高校生諸君！宮古商業高校へ続けの合い言葉で今後一層の努力をしてゆきましょう。

岩手インターハイ終了後、競技力が低下している現実を踏まえ、岩手インターハイの素晴らしい財産を少しでも維持する努力を、高体遠、県遠盟と協議し又特にも財政面に関して考慮し、岩手のレベルアップのため努力精選してゆかなければならないと思います。

中　体　連　だ　よ　り　No. 2

中学生を支えてくださる皆様へ

県中体遠ソフトテニス専門部委員長
伊　東　久美子

この１年間を振り返り、中学生（中体遠）が、高体遠の皆様、ソフトテニス遠盟や協会の皆様に支えていただいたことに深く感謝致します。

中体遠の大きな成果として特筆すべき事は、東北大会男女団体（男子：見前、女子：南都田）アペック優勝と全中（全国中学校ソフトテニス大会）での活躍です。全中では東北大会の優勝校がともに団体戦で５位に入賞いたしました。東北大会の個人戦でも男女共に準優勝、女子は全中への出場枠６分の３が岩手でした。中体遠関係者の願いが、女子のレベルアップでしたから、昨年３月の都遠府県対抗での女子ベスト１６入り（初勝利）とともに、今年の全中ベスト８は本当にうれしいニュースでした。また、１月の東北インドアでも男子団体：見前１位、中野３位、女子団体：南都田３位、見前５位と健闘し、強化の成果を感じることのできた１年でした。

これらの成果を支えた大きな要因は県外遠征です。現在、東北大会前の関東遠征と、都遠府県対抗前の静岡遠征（大会参加）を県遠盟に主催していただいています。ジュニア（小学校）で活躍している他県に遠いつき追い越すには、積極的に県外の遠征に出かけることが必要と考えます。この遠征で遠手（監督）の意識改革が図られ、早い時期に目標を持つことができます。「全中に出場する」とか、「全中で勝ち上がる」という目標を設定し、そのためには何が必要かを具体的に考える機会になります。漠然と「全中に出場したい」では、全中で勝ち上がることはもちろん、出場で活躍しているチームを実際に見て実際に戦い、その差を受け止めた時がスタートと思います。また、戦ってみて差が小さいことに気づくこともあります。こうなれば、しめたものです。「百聞は一見に如かず」と言いますが、「百聞は一戦に如かず」です。

全中の女子の対戦相手は静岡県の富士宮中でしたが、この相手とは２月の遠征で対戦していました。そういえば、一昨年の都遠府県対抗の男子団体５位も、２月の遠征で対戦した相手でした。どちらのケースも、２月には負けたり５分の相手に３月・８月の大会で勝つことができました。選手の意識の変化と相手の分析が勝因です。

さて、中学生にとって、全中や都遠府県対抗の他に目標になるものが「ジュニア選抜大会」です。いわゆる引遠した時期の３年生にとって、この大会が大きな励みになり目標になることは言うまでもありません。高校生の胸を借り、同じ土俵で戦うことができるのは本当にありかたいことです。高体遠の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

中体遠の関係者も指導に努力しておりますが、前連した遠征やジュニア選抜大会をはじめとし、各地区の学年別大会が全地区でフリー参加になったことや、一般の大会に中学生が出場枠をいただいていることなど、遠盟や協会、高体遠のご理解とご協力に改めて感謝致します。

学校５日制に伴い、部活動のあり方や諸大会の開催日等が話題になっておりますが、「選動部に所属させて良かった」「テニス部に所属させて良かった」と周囲の人に認められ応援される選手に育つよう、「テニスを教える」のではなく「テニスで教える」事の本質を忘れることのないよう、中体遠が一丸となって努力したいと思います。皆様の応援とご協力に感謝し、今後ともよろしくお願い申し上げます。また最後になりましたが、この場をお借りして保護者の皆様にも感謝申し上げます。

これからの部活動指導

前沢町立前沢中学校顧問　菊　地　晃　秀

今年度、男子の見前中と女子の南都田中が東北大会で揃って優勝し、全国大会でベスト８に入るという素晴らしい成績を残しました。このことは岩手の中学生に大きな自信を与えてくれたと思います。また、昨年度は男子の大和中が少人数ながらも県大会で優勝し、マスコミにも大きく取り上げられました。毎年のように素晴らしい活躍を見せてくれる子供たちに本当に頭が下がる思いです。

ここ数年、岩手の中学生は男女とも東北トップレベルの位置を占めるようになってきましたが、それと同時に県全体のレベルも向上してきたように感じております。男子ではこれまで盛岡地区や九戸地区の活躍が特に目立っていましたが、その差は確実に縮まり、今年度の新人戦ではどの学校にも勝つチャンスが出てきたように感じています。このことは、私としては全国で活躍する生徒が出る以上に嬉しいことだと思っています。なぜなら、１０年前の子供たちの多くは、「県大会に出場すること」が目標であって「県大会で優勝しよう」とか「東北大会に出場しよう」という目標をもっている生徒はほんの限られた指導者の生徒しかいなかったような気がするからです。そのような中、発足したのが中体連の強化委員会です。「レベルの低い岩手をどうにかして東北大会で優勝させたい」「子供たちに大きな目標を持たせたい」「テニスの知らない指導者にも指導法を学んでもらいたい」など。年２回の合宿、夏は陸前高田（連盟主催）冬は二戸の選抜大会後に、また全国で活躍されている指導者をよんでの講習会も開催されました。これらの事業は伊東健先生や君塚圭一先生のお力で実施できたものだったと思いますが、私のような未熟な指導者にはとても刺激的で驚きと感動の連続だったことを覚えています。このようなことを考えると、県全体のレベルが向上したということは、強化委員会の地道な取り組みの成果とも考えられます。

平成１４年度から学校は完全週５日制になります。県の校長会や中体連ではこのことにどのように対応していくのか、昨年度あたりから何度か話し合いが持たれてきたようですが、明確な回答や統一した線ははっきり示されていないように思います。今後、各地区毎に何らかの取り決めや約束が出てくるとは思いますが。ただはっきりしていることは、これからは学校の顧問の先生が一人で子供たちを指導していく時代ではないということです。東北大会で優勝した見前中や南都田中のように多くのスタッフ（コーチ、ＯＢ、父母会）を巻き込んだ協力体制が必要だということです。それにジュニア（小学生）の育成も大切になってきます。そう考えた場合、地域の協力体制をいかに作っていくかがとても重要になってきます。もちろんこのことは顧問の先生が考える問題ではなく、学校、地域、父母、協会、などが主体的に取り組んでいかなければならないことだと思います。しかし、実際は地域の指導者不足という大きな問題があるのではないでしょうか。私が中学生のときにお世話になった方がいまだ第一線で指導なされている現状をみると、やはり若い指導者の育成がとても大切だと思います。また、『学校の部活動に地域の指導者がどのようにかかわっていくのか』『部活動とスポ少の関係はどうあればよいか」などの問題を、子供たちの立場になって考え（子供たちが迷わない）、そのためのより良い環境作りを私達がしっかり行う必要があると思います。せっかく選んでくれたソフトテニスを生涯にわたって楽しんでもらうためにも…。

小　体　連　だ　よ　り　No.1

地域型ジュニア育成を目指して

岩手県小学生ソフトテニス連盟
副会長兼理事長　吉　田　洋　一

明けましておめでとうございます。

本年も皆様方のご協力を賜りまして小学生の育成等推進していく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、お蔭様で昨年４月に発足しました小学連は、現在２０団体、小学生会員３００名を超える組織となりました。（全国第１０位）小学連は県内の地域の指導者の方がソフトテニスを通して、小学生学齢児童に生涯スポーツを推進するために発足しました。発足の動機は日本連盟からの要請もありますが、現在の日本のジュニア（小、中学生学齢児）スポーツ育成の在り方の変革にあります。昨今報道されているように、全国各地で中学校では少子化や運動嫌い等から、▲部がない▲部活がない▲顧問のなり手がない▲部員かいない等顕著にスポーツ離れが現れ、また、２００２年度から完全学校週五日制になることから、土、日曜日を含めて部活動のあり方について、県小、中学校長会からの要請もあり、従来型の「学校体育から競技スポーツへ」の移行が崩れてきている現象であります。

文部科学省は先ごろ、スポーツ活動は生涯スポーツとして、各市町村に１以上の地域総合型スポーツクラブを設置し、子どもから大人までの一貫した育成、指導等の組織作りを答申しました。以上のように今後のジュニア育成について、本県も早急に検討しなければならないと思います。

○学校体育から生涯スポーツへ

それではジュニア期からのソフトテニス育成はどのようにしたらいいのでしょうか。前述のとおり、学校体育では限度があり、その方策を生涯スポーツに求めていかなければなりません。生涯スポーツとは、老若男女全ての人たちが健康やレクリエーション、そして人生の喜び

として楽しむスポーツです。ジュニアに置き換ると「子ども」のために行うものであり、学校体育のように学校のために「生徒」が行うものとは異質のものです。

○子どもの育成は生涯活動

ジュニアにソフトテニスを通して、親しみや自信、達成感等を指導してくれる方がいれば、子どもの健全育成はもとより、ジュニアにとっては一生涯の宝物となるのです。また、指導される方々においては、ジュニア期から一貫した指導ができますので、一生涯の活動になると思います。

○これからは地域の方々が担い手

生涯スポーツの担い手は誰なのでしょうか。それは地域の方々なのです。小学連はまさに前述の問題を解消してくれる一つとして発足しました。それは、生涯スポーツとして地域の方々が直接小学生学齢児を指導、育成し、組織の運営を行っております。また、子供たちは学校学区にとらわれず入会し、自由に活動しています。小学生の大会（予選通過もありますが、月に１回は大会（県内、東北、全国）があります）はその全てが学校対抗ではありませんので、自由にペアをつくることができ、また、個人戦が主です。　２００２年度からはシングルス研修会を行う予定ですので、一人しかいなくても試合をすることができます。発足以来、小学連は県内金市町村に一つ以上の組織化を推進しております。組織化といっても最初は親子の組織でいいのです。小学生をお持ちの父母の方やこれから地域でジュニアを指導される方がおられましたらご連絡頂ければ幸いです。

○中学生学齢児指導者の組織化のバックアップを

小学遠の加盟団体には小学生学齢児のみならず中学生学齢見までも指導している団体があります。これ以外にも県内で生涯スポーツとして中学生学齢児を指導、育成している地域の方がおられ、今後は中学生学齢児及び指導者の組織化を推進しなければならないと思います。本年度県連盟は、週休二日制時代を踏まえ、ソフトテニス発展の基礎となるジュニアの育成に携わる方々に対し、基礎的専門的な技術の知識及び指導方法を研修させ、地域スポーツの活性化に寄与する指導者の養成講習会を開催する予定です。（２００２．　２．　２開催予定）講習を受けた方々や現在指導していらっしゃる方々が各地域で活躍できるように、県遠盟反び各市町村協会のみならず中学校その他関係団体のご協力を賜りたいと思います。そして、中学生学齢児の生涯スポーツ大会を運営できるよう、組織化についてもご指導願いたいと思います。

○生きかいとしての指導者に

物や情報が溢れ、価値観の多様性、子どもの社会力が低下している現在です。自分の在り方についてまたは社会に貢献することに関心をもっておられる方が多いことと察しいたします。ソフトテニスのみならずジュニアスポーツが生涯スポーツとして地域社会が育む時期となりました。これからは地域の方々の出番です。自分の生きがいづくりとして、生涯活動としてジュニア育成をお願いしたいと思います。

○ジュニアは自己実現を目指し

ジュニアやジュニアを巣立った皆さんに申し上げたいことがあります。それは、ジュニア時代の指導者の先生方のことです。皆さんにソフトテニスという一生涯の友を授けてくれたのはジュニア期の先生方です。先生方は皆さんをずっと気遣っています。先生方は皆さんの勝ち負けで喜んだり、悲しんだりしているわけではありません。皆さんが心身ともに大きく成長したこに喜び、皆さんが遠くなったことに寂しさを感じています。先生方は心や身体の全人格的指導を行い、皆さんに自己実現の可能性を養わせて旅立たせております。どうぞ改めて先生方に感謝していただきたいと思います。また、皆さんは自己実現を目指し、今後ともご活躍を期待いたします。

○高校も地域と連携して

本年度県体協広報誌Ｎｏ４８号で県内の高校の運動部員が過去１０年でおよそ８，８００人減少しているとのことです。また、本年度本県の高校生ソフトテニス競技人口は中学生競技人目の４割である２，６１３人となっております。運動部員の減少に歯止めをするためにはまずＪそのスポーツがジュニアにとって価値のあるものそして楽しいものでなければなりません。そうでなければ高校ではやってくれません。一握りの勝者がいればいいのであれば、やがてそのスポーツは衰退します。もう一つは高校も地域の方を指導者として招聘していただきたいと思います。専門の指導はもちろんのことそして専門の顧問の先生かいなくても学校経営の一助になることと思います。将来は高校野球が導入しているように地域の指導者も監督として、ベンチでコーチできるようにしてみてはいかがでしょうか。最後に、地域の指導者も高校の発展を願ってやみません。地域の指導者は生涯スポーツの担い手としてジュニア育成に邁進しております。高校の先生方におかれましては生涯スポーツを推進している地域の指導者のご理解とご協力をお願い申し上げます。また、その中で活動しているジュニアに注目していただきたいと思います。これからのジュニアには自ら学ぶ意欲と独創性、創造性を育ませて、中学生時代までを充実して生活することがたいせつです。また、高校にあってもこれからは、自校の特性を考えて、どういう人間を人学させたいかという「これからの人間像」を多角的に考察することが必要であると思います。そのためには地域との連携が重要不可欠となります。

新しい世紀、新しい年をご祈念申し上げ、地域の指導者の方々とともにソフトテニス育成に微力ながら、今後とも精進させていただく所存です。どうぞ、本県のジュニアを今後ともご指導等よろしくお願い申し上げます。

挨　　拶

岩手県小学生ソフトテニス連盟
会　長　千　田　伸　生

２００１年４月新生２１世紀の幕開けと時を一にして岩手県小学生ソフトテニス連盟が誕生しました。

高体通ソフトテニス専門部会報紙上にご挨拶の場をいただき、当通盟を代表しお礼とご挨拶を申し上げます。

小学生通盟が結成される通程では、県連会長様や理事長様並びに関係の各理事の皆様方のご指導とご援助を賜わり、又福島県通盟の通藤正志様や山形県小学生通盟の関達郎様からもお励ましをいただきました。ありがとうございました。

ソフトテニスと最初に出会う小学生やＪｒは、県内各地域にたくさん居り、指導者はそれぞれに地域の実情に応じて小学生やＪｒの指導に携わってきたのですが、今小学生通盟が結成されたことによって、小学生やＪｒのソフトテニス環境が大きく前通しました。結成を最も喜こんで居るのは、各地域で日夜活動を続けている小学生とＪｒ及びその父母と指導者であろうと思います。

ソフトテニスに興味と関心を持たせながら、底辺の拡大を願い生涯スポーツの一翼を担う自覚のもと、会員ともども手を取りあってこの１年活動して参りました。

結成当初の登録状況は、１６団１５３会員ですが現在は２１団３１４会員（‘０１・１１現在）です。

大会会場を一戸町営コートや岩泉町営多目的運動場をお願いしながら脱盛岡一局集中を計り、各地開催を模索する中で会員の競技力の向上やＰＲを図ったり、小学生通信の発行による会員の広報活動や指導力の向上を図るための研修や育成活動の推通に当たったりしております。

この様に当連盟の活動は、緒に着いたところです。県内各地域に根ざした小学生やＪｒの活動が、一層広がり深まる様に、市町村協会や県通自治体等各関係各位と連携しながら推進することが結成２年目の方向と考えております。つまり、初年度の組織立上げから広がりの方向と組織内専門部活動の活性を図ること、この２点が２年次の活動目標となります。

高校生の皆さんが練習している時に、小学生やＪｒのボールが練習コートに転がり込む時もあろうかと思います。そんな時には先輩の声をどうぞかけて下さい。小学生やＪｒは上を向いて成長します。お願いになってしまいましたが、高等学校ソフトテニス部のご発展と部員の一層の活躍を祈念して、ご挨拶といたします。

協会だより No.1　～宮古地区～

今回は、高総体男子団体で宮古商業が優勝するなど最近元気のある宮古地区を支えている宮古ソフトテニス協会の２人の方に原稿をお願いしました。

宮古からインターハイ選手を

宮古市ソフトテニス協会
副理事長　山　中　昭　彦

私は、インターハイ出場の経験がなく、卒業後国体出場を目指しましたが、平成４年の最終通考会敗退で断念しました。　１ヶ月後宮古北高校（佐藤利幸監督、現黒沢尻南）が新人大会ベスト８ということを聞き沿岸大会を見学に行ったのが指導者への第一歩だったのです。

同校のコーチとなり翌年の高総体では団体準優勝し（マッチ２本をのがす）個人２、３位の成績で、黒磯インターハイへ行くことが出来ました。私自身初めてのことで大変感激したものでした。

翌年母校である宮古商業の生徒から「北高のように強くなりたいので教えてほしい」と要請され現在に至っております。優勝こそしていないものの宮古北・宮古商業の両校で準優勝７回、３位２０回、インターハイ出場５回という成績は上出来かな？と思っています。

前置きが長くなりましたが、私はコーチの他に協会の副理事長の立場にあり、宮古のレベルを上げるために色々と工夫をしました。交通が不便（盛岡から１時間半）であるため、他地区及び県大会のない時期に大会を企画することを考え、まず夏休みに行なわれていた市民体育大会を協会長杯とし、県内外の高校生と中学３年生（選学後ソフトテニスを続ける者に限る）に参加してもらうこととし、６０～８０組の参加（男女別日程）で行っています。新人戦地区大会前に試合の経験が出来ることと、夏休みの成果を見られるのではないかと思い企画しました。

次に１１月の第２通に中学・高校・社会人の団体交流大会を企画しました。中高生は社会人のプレイを見、またプレイして今後に役立ててほしいとの願いと、私自身が主に女子の指導をしているので、地元の男子生徒への「つぐない」的な要素も含んでいました。男女とも試合のないもう１日は、社会人との練習試合や合同練習を行っています。特に男子は県内の国体出場経験者を中心に参加してもらっていますので（千葉県の室谷選手や秋田の児玉通手も参加）いい経験になっているものと思っております。

もう１つは１・２月に社会人のインドア大会がありますが、その大会に高校生と一部中学生を前日の予選会を経て本大会へ出場出来るようにしています。

以上の３つの行事の成果かはわかりませんが、昭和５８年に宮古商女子がインターハイ出場後宮古市から途絶えていたものが、平成５年の宮古北を始め、宮古商も出場するようになり、昨年は男子団体で昭和５２年の宮古高以来の優勝（個人は昭和４５年以来の優勝）し、宮古高・宮古工も好成績を残しております。

女子は宮古商が高総体４年連続３位と中学校時代の各通手の実績を考えれば立派な成績と思います。　１つつけ加えれば、岩手インターハイの年宮古商女子は新人大会で準優勝しながら高総体では敗れましたが、レギュラー

６人のうち２人は中総体地区敗退で、１人は地区内で０勝、もう１人は試合に出場したことがないという遠手遠でした。なぜこのことを書いたかと言いますと、選手の中に「あきらめやすい、学校の名前に負ける」選手が多いからです。選手の皆さん、やれば出来るのです／

最後にこの場をおかりしましてお世話になりました宮前委員長、宮田委員長、佐藤利幸先生、ョネックスの川田さん、そして協力頂いた県内社会人の選手、先生方にお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。これからも宮古市をよろしくお願い致します。

中高生がソフトテニスを好きになる環境づくりが協会の役目

宮古市ソフトテニス協会理事　上　山　則　夫

リードされた場面で「対戦相手のプレーヤーがダブルフォルトをすればいいな、ネットにボールをかければいな」と試合中考えることがありました。でも、よく考えてみると、このような考えはマイナス思考であり相手が先にミスをすれば自分のプレーができなくなります。テニスの試合で大事なことは、プラス思考で自分が良いプレーをすることだと思います。

ソフトテニスをしてスポーツには敵と戦うことと、自分と戦うことの２つがあることを感じました。僕は、中学校の試合では自分に負けてしまいました。でも、ソフトテニスをしたことで先生やコーチや多くの人と出会えました。

中総体で反省することは、試合への気持ちの入り方とチャレンジ精神が欠けていたことです。僕たちは常に挑戦者として相手に立ち向かわなければならないのに相手に合わせて負けてしまいました。技術があっても生かせないことが悔しかったです。

上記の作文は、私がソフトテニス教えた花輪中学校の男子生徒が中総体を終えて書いた作文です。彼らの書いた作文を読んで「高校でもソフトテニスを頑張るな」という確信を持ちました。その生徒たちが、今は高校２年生となり宮古地区の４校に分かれ１０人中８人がソフトテニス部に入り素晴らしい活躍をしています。高校で頑張れる姿勢をっくるのは、中学校での取り組みが大切であり、その指導論について教えてくださった君塚圭一先生並びに伊東健先生にはこの場をかりて感謝申し上げます。宮古地区の高校生は素晴らしい先生方と巡り合い高総体の宮古商業の男子団体優勝に続き、新人戦では宮古高、宮古工業が３位、選抜インドアでは宮古商業が準優勝と輝かしい成績を残し指導者の皆さんに感謝する次第です。

宮古市にはテニスコートがなく立地条件は良くありませんが、宮古市ソフトテニス協会は、小笠原会長、波岡理事長をはじめ先輩方が本当によく頑張って下さっております。中高生がソフトテニスをでき、ソフトテニスを好きになる環境をつくるのが協会の役目でもあり、その企画の中心となっているのが山中君（高校時代の良きライバル）です。私や野田口君は、山中君の企画に乗り、高校生とプレーすることで、プレーヤーとしての経験や技術を彼らに伝えるようにしています。高校生と練習すると自分が若返り彼らからパワーを貰えるし、逆に学ぶ事もあります。

私は地域への貢献という考えで花輪中学校のコーチをしていますが、クラブ活動の取り組み方が先生方の考え一つで大きく変わる事に驚きを感じています。文部省の方針の基にクラブ活動が縮小されていく中、地域､学校、協会ともに深く考え、地区の方向性を見出さなければならない時代と痛感しています。子供たちにもスポーツの得意、不得意はありますが、一般の勉強では学ぺない事が運動クラブには数多くあります。勉強は自分が力をつければ成果を出せますが、スポーツは相手との戦いの中で結果がでます。結果を出すまでの過程の中で自分との葛藤や人間関係があり、目標に向かって努力する姿勢、心技体かつくられます。学校の中でクラブ活動のあり方が変わろうと子供達におけるクラブ活動の重要性は変わらないので学校の先生方も地域の人もボランティア活動（ボランティアとは自分の出来る事を出来る範囲で行い、血液が人間の身体を流れる様に自然な取り組みをする事と思います。）としてクラブ活動に取り組めればと思います。

学校のクラブ活動の中には指導者が教える事の出来ないとても大切なものがあります。それは先輩、後輩の関係です。社会が能力主義になり上下関係が薄れていく中で目上の人への接し方や後輩への思いやりは、学生時代の先輩、後輩の関係から学ぶことが第一歩だと思います。厳しい先輩、めんどうみのいい先輩がいて後輩は育ちます。学校の伝統も教育者ではなく先輩、後輩の中で生まれると思います。私も高校時代素晴らしい先輩と巡り合い宮古高校が優勝を含めて３年連続高総体ベスト４の時代に軟式テニスをすることができ、現在でもそれが力となっています。今の高校生にはソフトテニスの技術だけでなく、厳しい先輩であり、後輩を思いやる先輩になって欲しいと思っています。後輩に素晴らしいと思われる先輩のいる学校は良い成績を残し、後輩も育ちます。

最後に、今活躍している高校生が選学、就職で岩手を離れても、いつかは故郷に帰り岩手のプレーヤーとして、熱き指導者として活躍することを期待しています。

宮高、宮商、宮工、宮水、宮北、県内のソフトテニス部員　頑張れ！